



第29期 Business Report

2013年4月1日～2014年3月31日

株式会社 太陽工機

(証券コード:6164)

企業理念

私たちは、
先進的技術を駆使した
製品を創造し、
精密加工を通して
世界の製造業の発展に
貢献する

経営方針

1 内外の法令を遵守し、
フェアな企業活動に徹する

2 イノベーションを追求し、
最先端の技術力と提案力で
社会に貢献する

3 企業価値を高め、
顧客、従業員、株主、
その他のステークホルダー
に報いる

増収増益に向け、海外市場の拡大及び国内 需要の掘り起こしに注力してまいります。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2013年度は、国内外での展示会に出展するとともに、新製品の開発を行い、新規ユーザー層の獲得及び設備投資需要の取り込みに尽力してまいりました。また海外市場の拡大に向け、アメリカのシカゴに営業拠点を開設し、世界最大手メーカーへの納入実績をもとに、中堅企業への拡販を推し進めてまいりました。

当期の業績につきましては、前年度後半からの受注の伸び悩みを受け、売上高は4,461百万円（前期比21.2%減）となりました。利益面では、営業利益が226百万円（前期比67.1%減）、経常利益が188百万円（前期比71.0%減）、当期純利益は80百万円（前期比89.6%減）となりました。

当期の配当につきましては、前年度に引き続き、期末配当10円の実施を決定いたしました。

2014年度につきまして、国内においては自動車部品関連企業や産業機械関連企業を中心に需要は堅調に推移しており、引き続き安定的な受注が見込まれております。また海外においては、アメリカをはじめ欧州、中国の需要も徐々に回復してきております。特にアメリカにおいては、2013年度に開設した営業拠点を中心に、更なる需要の獲得及び拡販を推し進めてまいります。今後とも当社は、市場ニーズを捉えた製品の投入を軸に営業展開を図り、需要の発掘及び当社製品の普及拡大に注力してまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年6月

代表取締役社長 渡辺 登



市場開拓と新製品による需要喚起を図り、持続的な成長性を確保していきます。



代表取締役社長 渡辺 登

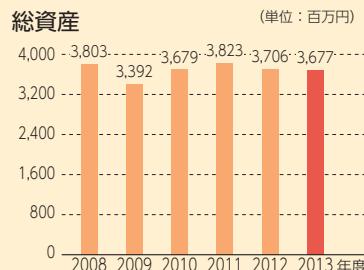
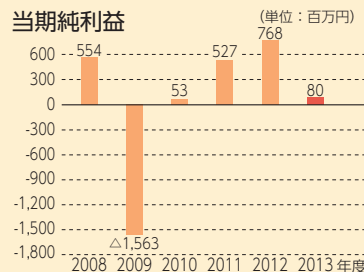
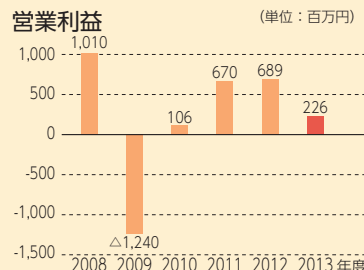
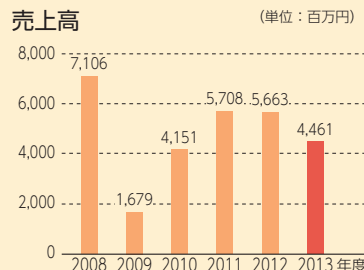
需要の踊り場を迎え、業績の落ち込みを余儀なくされる中で、次への布石を打った太陽工機の2013年度。ここでは渡辺社長への取材を通じて、当期の総括を踏まえ、今後の方向性についてご説明します。

Q1 当期の営業状況についてご説明願います。

A 当期の受注状況は、期後半にかけて徐々に改善してきましたが、通年では全体の約75%を占める国内需要の回復が遅れ、前期を下回る状況となりました。特に、前期業績に寄与した自動車関連企業の大型案件が落ち着いたことや、国内における産業機械関連企業の需要が一巡したことなどから、売上高は計画を下回る減収となりました。

そうした中でも、海外需要においては、日系自動車関連企業のメキシコ納入案件が大幅に増加する動きが見られました。また、中国・その他アジア地域では、日系企業への納入案件が減少しましたが、現地ユーザーからの新規受注は堅調に推移しています。全体的には中国・その他アジア地域の納入割合が低下し、海外全体の納入比率は前期の39.0%から当期は32.1%となりました。

■ 財務ハイライト



(注) 金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

売上高の落ち込みに伴い、利益面も減益が懸念されましたが、ロット生産対応や平準化など、生産効率の向上により原価率の増加を抑制し、営業利益の計画値に対しては微減に踏みとどまりました。

当期の事業展開においては、2013年10月にアメリカ・シカゴに営業拠点を開設し、積極的な市場開拓への足掛かりとしました。また、新製品として小型立形複合研削盤「SVG-3」及び「SVG-3T」と汎用立形複合研削盤「Vertical Mate®35」を発表するとともに、本社工場を利用したプライベートショーや中国国際工作機械見本市（CIMT2013）、メカトロテックジャパン2013に出展し、設備投資ニーズの掘り起こしに注力しました。

Q2

海外営業強化の取り組み状況は
いかがですか？

A

当社は現在、中国・北京、フランス・パリ、そして新たにアメリカ・シカゴの3ヵ所に営業拠点を設置し、日系企業のグローバル展開への対応と、現地ユーザーの開拓を進めています。このうち、シカゴ拠点によるアメリカ市場への営業強化は、当面における重点テーマとして位置付けています。

シカゴ拠点の開設は、アメリカにおける世界最大手の航

空機エンジンメーカーや建設機械メーカーへの納入実績をもとに、大手企業とそのサプライチェーンを構成する中堅・中小企業からの需要獲得を目的としています。特にそれらの中堅・中小企業は、多くが高度なものづくりの技術を武器としており、当社製品の普及が期待できるターゲットです。今後、アメリカ各地の販売代理店と緊密に連携した営業活動を展開しつつ、広告宣伝を通じて当社及び当社製品の知名度向上を図ることで、新規ユーザーの開拓と取引獲得を目指します。

また、シカゴ拠点はサービス体制の拡充も担い、アメリカだけでなく、メキシコ地域の自動車関連企業についてもサポートしていきます。

Q3

今後どのような新製品の
開発・投入を進めていきますか？

A

当期における新規開発機は、前述の通り小型立形複合研削盤「SVG-3」及び「SVG-3T」を2013年10月に、汎用立形複合研削盤「Vertical Mate®35」を同11月に発表しました。

「SVG-3」及び「SVG-3T」は、自動車や建設機械、電気機器における小・中型部品の加工を行うお客様に、省スペース化とコストパフォーマンスの向上をもたらす新製品で

す。また「Vertical Mate[®]35」は、より幅広い業種のお客様に汎用機としての利便性をシンプルかつリーズナブルに提供するコンセプトで開発されました。両機種とも順調に引合い・受注を獲得しており、次期売上への貢献が期待できる状況です。

そして現在は、今秋に開催される日本国際工作機械見本市（JIMTOF2014）での発表に向けて、2機種の新規開発に取り組んでいます。これらはいずれもワークの自動交換をスピードアップし、機械自体の稼働性能を高めることで、お客様の生産性向上を実現する次世代型製品です。新規ニーズの獲得と同時に、従来型の製品を導入していただいているお客様へのリプレイス提案による受注も狙っています。

今後の開発は、こうした生産性に着目した製品づくりによって、付加価値向上のための新たな方向性を打ち出し、収益力をより一層高めていく考えです。

Q4

株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A

このたびの期末配当については、期初の計画通り1株当たり10円（前期同額）とさせていただきました。当社事業は景気動向により業績が影響を受けやすい状況にありますが、配当維持に努めつつ、収益の拡大と

安定化を図り、更なる還元の拡充を目指してまいります。

次期の業績については、引き続き厳しい事業環境が予想されますが、年度後半に国内自動車関連企業の大型受注を予定しており、これを前提として増収増益を見込んでいます。当社は、ここに述べてきました積極的な市場開拓と、生産性に着目した新製品により需要喚起を推進するとともに、お客様の課題を解決する技術提案に一層の磨きをかけ、持続的な成長性を確保していきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業へ末長くご支援を賜りますようお願い申し上げます。



需要の回復が見込まれる中、需要の掘り起こし及び新規ユーザーの獲得に尽力いたしましたが、増収増益には至りませんでした。

日本をはじめ、アメリカ、欧州、中国等の世界経済の回復が見込まれる中、当社の受注状況も内需外需ともに徐々に改善してまいりましたが、本格的な需要回復には至らず、受注及び売上高は前年度を下回る結果となりました。こうした状況にあっても、国内においては、自動車部品関連企業や産業機械関連企業の堅調な需要の取り込みに成功し、海外においては、アメリカをはじめ中国、欧州等の幅広い地域の現地ユーザーからの新規受注を獲得しております。

当期の受注高は4,515,735千円（前期比13.5%減）、売上高は4,461,937千円（前期比21.2%減）となりました。営業利益は226,707千円（前期比67.1%減）、経常利益は188,486千円（前期比71.0%減）、当期純利益は80,167千円（前期比89.6%減）となりました。

その他 専用研削盤

自動車部品関連企業からの海外向け受注案件が売上に寄与いたしました。

国内の自動車部品関連企業からインドやメキシコ等の海外向け複数台受注をいただきました。当期のその他専用研削盤の売上高は618,939千円（前期比22.9%減）となりました。今後は自動車部品関連企業の更なる需要獲得に向け、新製品の開発に注力してまいります。

売上高
618 百万円

13.9
%

8.9
%

2013年度
4,4

横形研削盤

自動車部品関連企業をはじめ、産業機械関連企業、工作機械関連企業からリピート受注をいただきました。

国内の自動車部品関連企業及び産業機械関連企業、工作機械関連企業等の幅広い業界から受注をいただきましたが、自動車部品関連企業からの複数台受注案件の弱まりがみられました。その結果、当期の横形研削盤の売上高は399,675千円（前期比53.1%減）となりました。今後も製品の付加価値の向上並びに販路拡大を図ってまいります。

売上高
399 百万円



IGH-2NT

横形研削盤とは



研削盤は、旋盤やマシニングセンタなどで加工された部品を砥石で磨き、仕上げを行う工作機械です。部品を重力に対して水平に回転させて加工するタイプの機械を横形研削盤と言います。

立形研削盤

汎用機及び標準機、小型部品加工向け研削盤等、様々な機種を受注が売上に貢献いたしました。

立形研削盤の中で、汎用機である Vertical Mateシリーズ及び、標準機であるNVGIIシリーズ、小型部品加工向けのIGVシリーズの受注を数多くいただきました。なお、当期の立形研削盤

の売上高は3,443,322千円（前期比14.1%減）となりました。今後は立形研削盤の更なる成長に向け、新製品の開発を推し進めてまいります。



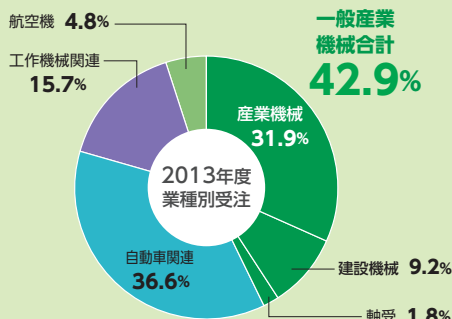
Vertical Mate*55

売上高
3,443 百万円

売上高
61
百万円

77.2
%

売上高



立形研削盤とは



立形研削盤は、部品を重力に対して垂直方向に回転させて加工する方式の工作機械です。当社がもつ独自技術により1991年に業界で初めて開発・製品化し、現在は主力製品として国内でトップシェアを占めています。加工する部品を垂直に設置するため、段取りが容易であるばかりか重力の影響を受けず加工精度に優れた特性をもち、工場内の省スペース化にも貢献します。

当社の研削盤が加工した製品は、こんなところで使われています。



当社の研削盤は、自動車や航空機、建設機械におけるエンジン部品やシャフト、ベアリング、風力発電設備の変速機といった重要部品の加工に利用されています。0.001mm単位で要求される精度に応じて、低燃費の実現や振動の抑制などによる乗り心地、安全性、長寿命等品質の向上に重要な役割を果たしています。

I 財務諸表

貸借対照表

(単位:千円)

科 目	前 期 2013年3月31日現在	当 期 2014年3月31日現在
【 資 産 の 部 】		
流 動 資 産	2,367,070	2,399,323
現 金 及 び 預 金	296,039	107,751
売 掛 金	1,000,572	1,187,573
仕 掛 品	727,129	799,370
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	174,331	190,725
前 払 費 用	7,993	15,620
繰 延 税 金 資 産	160,779	79,344
そ の 他	1,226	19,936
貸 倒 引 当 金	△1,000	△1,000
固 定 資 産	1,339,769	1,277,974
（ 有 形 固 定 資 産 ）	(1,290,639)	(1,221,417)
建 物	793,901	746,193
構 築 物	12,514	10,462
機 械 及 び 装 置	44,600	94,099
車 両 運 搬 具	12	6
工 具、器 具 及 び 備 品	18,815	16,385
土 地	354,269	354,269
建 設 仮 勘 定	66,526	—
（ 無 形 固 定 資 産 ）	(6,646)	(4,905)
ソ フ ト ウ エ ア	5,987	4,246
電 話 加 入 権	659	659
（ 投 資 そ の 他 の 資 産 ）	(42,482)	(51,650)
長 期 前 払 費 用	5	—
繰 延 税 金 資 産	5,741	4,083
敷 金 及 び 保 証 金	36,585	47,417
そ の 他	150	150
資 産 合 計	3,706,840	3,677,297

(単位:千円)

科 目	前 期 2013年3月31日現在	当 期 2014年3月31日現在
【 負 債 の 部 】		
流 動 負 債	485,825	461,689
買 掛 金	155,013	152,541
短 期 借 入 金	—	60,000
リ ー ス 債 務	55,265	57,132
未 払 金	63,690	55,303
未 払 費 用	45,958	46,452
未 払 法 人 税 等	43,761	22,584
未 払 消 費 税 等	48,324	—
前 受 金	2,459	210
製 品 保 証 引 当 金	45,324	38,891
役 員 賞 与 引 当 金	18,289	21,947
そ の 他	7,738	6,626
固 定 負 債	815,661	753,720
リ ー ス 債 務	768,449	711,317
長 期 未 払 金	47,211	42,402
負 債 合 計	1,301,486	1,215,410
【 純 資 産 の 部 】		
株 主 資 本	2,390,270	2,450,695
資 本 金	700,328	700,328
資 本 剰 余 金	470,126	471,970
資 本 準 備 金	387,828	387,828
そ の 他 資 本 剰 余 金	82,298	84,142
利 益 剰 余 金	1,266,363	1,317,301
そ の 他 利 益 剰 余 金	1,266,363	1,317,301
繰 越 利 益 剰 余 金	1,266,363	1,317,301
自 己 株 式	△46,548	△38,905
新 株 予 約 権	15,083	11,192
純 資 産 合 計	2,405,353	2,461,887
負 債 純 資 産 合 計	3,706,840	3,677,297

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:千円)

科 目	前 期	当 期
	自 2012年4月 1 日 至 2013年3月31日	自 2013年4月 1 日 至 2014年3月31日
売 上 高	5,663,366	4,461,937
売 上 原 価	3,948,264	3,142,832
売 上 総 利 益	1,715,101	1,319,105
販売費及び一般管理費	1,025,630	1,092,398
営 業 利 益	689,470	226,707
営 業 外 収 益	12,635	8,779
営 業 外 費 用	52,107	47,000
経 常 利 益	649,999	188,486
特 別 利 益	—	227
新 株 予 約 権 戻 入 益	—	227
特 別 損 失	8,271	—
退 職 給 付 費 用	8,271	—
税 引 前 当 期 純 利 益	641,727	188,713
法人税、住民税及び事業税	39,854	25,453
法 人 税 等 調 整 額	△166,520	83,092
法 人 税 等 合 計	△126,666	108,546
当 期 純 利 益	768,394	80,167

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	前 期	当 期
	自 2012年4月 1 日 至 2013年3月31日	自 2013年4月 1 日 至 2014年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	817,745	△135,604
投資活動によるキャッシュ・フロー	△27,502	△34,095
財務活動によるキャッシュ・フロー	△692,002	△18,587
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	98,241	△188,288
現金及び現金同等物の期首残高	197,798	296,039
現金及び現金同等物の期末残高	296,039	107,751

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(単位:千円)

当 期 自 2013年4月 1 日 至 2014年3月31日	株 主 資 本								新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本 合計		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
2013年4月1日残高	700,328	387,828	82,298	470,126	1,266,363	1,266,363	△46,548	2,390,270	15,083	2,405,353
当 期 変 動 額										
剰余金の配当					△29,229	△29,229		△29,229		△29,229
自己株式の取得							△28	△28		△28
自己株式の処分			1,844	1,844			7,671	9,515		9,515
当 期 純 利 益					80,167	80,167		80,167		80,167
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）									△3,891	△3,891
当期変動額合計	－	－	1,844	1,844	50,937	50,937	7,643	60,424	△3,891	56,533
2014年3月31日残高	700,328	387,828	84,142	471,970	1,317,301	1,317,301	△38,905	2,450,695	11,192	2,461,887

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

アメリカに営業拠点を開設、海外市場の開拓を強化

2013年10月にアメリカのシカゴに営業拠点を開設いたしました。アメリカ地域における世界最大手の航空機エンジンメーカー、建設機械メーカー、ベアリングメーカーへの納入実績をもとに、大手企業をはじめ、中堅・中小企業といった幅広い企業からの需要獲得を推し進めてまいります。

2014年度には、サービスマンも駐在させ、メキシコを含む北米市場でのサービス体制も確立してまいります。

今後とも当社は、人員拡充等の営業・サービス体制の強化を図り、グローバルマーケット開拓を加速させてまいります。



駐在先：DMG MORI SEIKI U.S.A., Inc. (シカゴ)

更なる需要獲得へ、よりお客様のニーズに合った製品を開発

2013年度は、自動車や建設機械・電気機器業界の小・中型部品の加工向けである小型立形複合研削盤「SVG-3」及び「SVG-3T」並びに、シンプル&リーズナブル価格の汎用立形複合研削盤Vertical Mateシリーズの第4弾「Vertical Mate®35」を発表いたしました。

2014年度は10月に開催されるJIMTOF2014での発表に向け、自動車部品業界の小型部品の加工に適した高生産型立形研削盤及び、立形研削盤の標準機である「NVGIIシリーズ」の機能を更にアップさせた中大型立形複合研削盤の開発を進めてまいります。

今後とも当社は、お客様のニーズにマッチした製品を開発し、付加価値の向上に尽力してまいります。



SVG-3T



Vertical Mate® 35

会社の概要

(2014年3月31日現在)

Corporate Data

会 社 名	株式会社太陽工機 (TAIYO KOKI CO., LTD.)
資 本 金	700,328,200円
設 立	1986年3月14日
主な事業内容	工作機械（各種研削盤）の開発・製造及び販売
従 業 員	170名
ホームページ	http://www.taiyokoki.com/
本社所在地	新潟県長岡市西陵町221-35
関 連 会 社	DMG森精機株式会社

役 員	代表取締役社長	渡 辺	登
(2014年6月12日現在)	常務取締役	小林	男
	常務取締役	棚橋	裕
	取締役	村 寛	義
	取締役	高 辺	剛
	取締役	渡 藤	司
	取締役	加 森	彦
	取締役	間 瀬	宏
	常勤監査役	大 野	和 彦
	監査役	大 野	彰
	監査役	平 塚	毅
	監査役	内 ケ 崎	邦

株式の状況

(2014年3月31日現在)

Stock Data

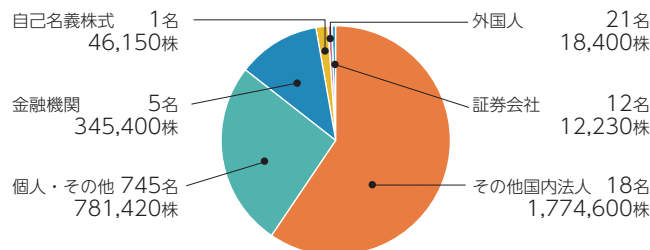
発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,978,200株
株 主 数	802名

大 株 主

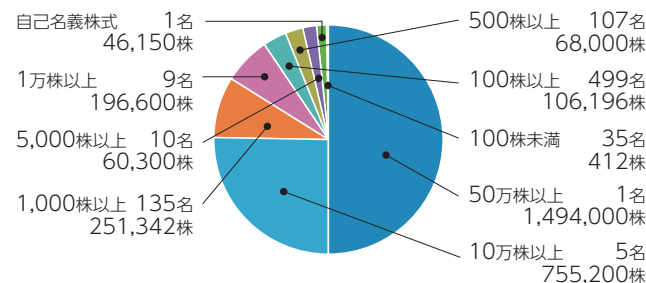
大株主（自己株式は除く）	持株数（株）	持株比率（%）
DMG森精機株式会社	1,494,000	51.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	222,300	7.6
株式会社渡辺	152,000	5.2
渡辺登	148,000	5.0
太陽工機従業員持株会	124,900	4.3
株式会社井高	108,000	3.7
株式会社第四銀行	40,000	1.4
株式会社三井住友銀行	40,000	1.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	38,300	1.3
中田有希	15,400	0.5

(注) 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式（46,150株）を除いて計算しております。

所有者別分布状況



所有数別分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 TEL 0120-782-031（通話料無料）
特別口座の口座 管 理 機 関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）
公 告 の 方 法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.taiyokoki.com/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

ネットワーク

<国内拠点>

本社・工場

〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221-35
TEL. 0258-42-8808（代） FAX. 0258-42-8810

東部営業所

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-340 ウノビル7階
TEL. 048-658-8701 FAX. 048-658-8702

中部営業所

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-35-16
(DMG森精機株式会社内)
TEL. 052-563-1270 FAX. 052-563-1310

西部営業所

〒564-0052 大阪府吹田市広芝町4-1 江坂・美貴ビル8階
TEL. 06-6378-7166 FAX. 06-6378-7167

<海外駐在拠点>

中国（北京）

Room 1605, Tower B, Global Trade Center, No.36 North Third Ring Road East, Dongcheng District, Beijing 100013, China
TEL. +86-10-5825-6006 FAX. +86-10-5825-6007
(DMG MORI SEIKI China 北京テクニカルセンタ内)

フランス（パリ）

Parc du Moulin, 1 Rue du Noyer BP 19326 Roissy en France 95705 Roissy CDG Cedex, France
TEL. +33-01-39-94-68-00 FAX. +33-01-39-94-68-59
(DMG MORI SEIKI フランステクニカルセンタ内)

アメリカ（シカゴ）

2400 Huntington Boulevard Hoffman Estates, Illinois 60192
TEL. +1-847-593-5400 FAX. +1-847-593-5433
(DMG MORI SEIKI U.S.A., Inc. シカゴテクニカルセンタ内)

ホームページのご紹介

<http://www.taiyokoki.com/>

当社ではホームページにて当社の企業情報を随時開示しています。製品紹介、各種リンク、サポート情報等を掲載しているほか、IR情報のサイトでは決算短信等をご覧いただけます。

